

1. 本園の教育目標

・たくましい子 思いやのある子

2. 本年度重点的に取組目標・計画

幼稚園教育要領の改訂を踏まえ、一人ひとりの幼児を大切にした質の高い教育の実践を目指す。

3. 評価項目の達成及び取組み状況

	評価項目	評価	取組み状況
1	幼児教育要領の改訂を踏まえ、遊びを通して総合的な指導を行う上で、幼児期に育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育みたい姿」をふまえた指導の状況	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全保育者が園児の担任という意識で園児一人ひとりの理解に努めた。園児に対する様々な視点からの話題提供により、育ってほしい姿が見え、個々に応じた援助や発達を促す時期に合った活動を提供できた。 ・10の姿を意識した活動を取り入れ、子どもの姿を拾い上げ見守ったり援助することで友達と育ち合い意欲的に過ごすことができた。 ・環境設定を工夫し、また教諭間での連携を強化する為園内研修を多くもち、有効な時間の取り方や内容に関して共通理解した。
2	遊びを通して総合的な指導を行う中で幼児に適した環境が整備されているか、安全状況に対する取組み状況	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染予防対策に手洗い、消毒、うがいの励行に努めた。また、定期的に除菌作業を行った。 ・年齢に応じた遊びや動線を予測して、危険回避に努めた。また危機を予測することで迅速に対応できた。 ・子どもの感性に響く環境を考えた遊びや活動を展開する中で、園内の危険箇所を知らせ、安全に対する意識を高めることができた。 ・毎月の避難訓練を通して災害や緊急時に対する対応の仕方を体得すようにした。訓練の反省をもとにマニュアルの整備・改善をした。 ・避難経路になるテラスの定期的清掃をした。安全面から昇降口等の利用方法など安全面での見直しが必要である。
3	一人ひとりの幼児の発達の特性を理解し、教職員間で周知と発達に即した指導の取組み状況	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に寄り添った関わり、声掛けをした。 ・支援の必要な子どもや気になる子どもに関しては、職員の加配をし、専門性を高めるための会議や研修を通して情報を共有し、援助の仕方を話し合った。(長期的対応、早急対応、保護者対応) ・保護者や関係機関との連携により個に応じた関わり方ができた。 ・さらに保育者の連携を強化するために、発達に応じた遊びの提供や生活習慣の支援ができるよう、保育者の専門性を高めていきたい。

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	3つの評価項目について重点的に取り組んだ結果、一人ひとりの幼児を大切にした質の高い教育を実践することが出来た。避難訓練での確実な成果を実感することができた。課題も明確となり、日々の園生活に活かされている。

5. 今後の課題

	課題	具体的な取組み方法
1	園内研修	<ul style="list-style-type: none"> ・リモート講習の機会が増え研修の受け方に変化が見られた。 ・今後も「10の姿」を意識した活動を取り入れ、子どもの姿から10の姿を拾い上げ、保育教諭間での連携を強化したい。 ・コロナ禍の中、保育者間の情報交換や意見交換等にICTを有効に用い、共通理解を図ることが急務である。
2	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染対策を日々怠る事なく安心して過ごせる。 ・危機管理マニュアル等を理解し、意識の向上や改善を図る。
3	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭や室内の環境について話し合い、遊びが充実するように幼児の発達に沿った環境構成に取り組む。

6. 学校関係者評価委員会の評価

教育課程に基づいた運営の質については概ねA評価を頂く。自然や実体験を通して園児を育む姿勢がよくわかった。今年度はICTの導入など、環境構成に新しいところみを感じられた。今後も、コロナ禍の中、子ども達の最善の学びについて考えながら、具体的活動を展開していけるよう、また園の改築・存続のために、必要なことを考え園運営されることに期待がよせられた。